

教育研究評価の実施組織及び評価者数について（案）

○評価実施組織及び評価者数を検討するに当たっての前提

評価組織は大きく区分して3つ。

- ①達成状況判定会議
- ②現況分析部会
- ③研究業績判定組織

1. 達成状況判定会議の評価実施組織と評価者数

(評価実施組織)

- ・ 達成状況判定会議は、各法人の規模や地域性等を考慮し、8つのチーム会議に分類。
- ・ 各チーム会議では、10～14の法人を担当（大学共同利用機関法人を担当するチーム会議は4法人分）することとなるが、評価者の負担を考慮し、各チーム会議ごとにさらに3～4班に分けて、1つの班につき3～4の法人を担当する。
- ・ 書面調査は、班を構成する評価者全員で行うが、訪問調査は、必要最低限の人数に絞って実施する。

(評価者数)

- ・ 各班は、担当する大学等の学部・研究科等の構成を踏まえ、4～6人で構成。
- ・ 訪問調査は、1法人について3～5人（延べ348人）
- ・ 達成状況判定会議全体としては127人。

※評価者数試算

チーム会議名	担当する法人の種類	各チーム会議の担当法人数	各班の担当法人数(試算)			チーム会議評価者数(試算)	各班の評価者数(試算)	各法人の評価者数(試算)			
								書面調査			訪問調査
			平均	最小	最大			平均	最小	最大	
第1チーム会議	大規模大学①(東日本)	1 2	3	3	3	2 4	6	6	6	6	5
第2チーム会議	大規模大学②(西日本)	1 4	3.5	3	4	2 4	6	6	6	6	5
第3チーム会議	中規模大学①(東日本)	1 4	3.5	3	4	2 0	5	5	5	5	4
第4チーム会議	中規模大学②(西日本)	1 2	4	4	4	1 5	5	5	5	5	4
第5チーム会議	教育学系大学	1 2	3	3	3	1 6	4	4	4	4	3
第6チーム会議	工学系大学	1 0	3.3	3	4	1 2	4	4	4	4	3
第7チーム会議	医学系、芸術系大学、大学院大学等	1 2	4	4	4	1 2	4	4	4	4	3
第8チーム会議	大学共同利用機関法人	4	1	1	1	4	4	4	4	4	3
計		9 0				127					

(注1) 法人数は平成19年度末時点の予定数。

(注2) 試算詳細は、参考資料5のとおり。

2. 現況分析判定部会の評価実施組織と評価者数（研究業績判定組織に関わる者を除く）
（評価実施組織）

- ・ 現況分析判定部会は、各学部・研究科等の分野を考慮し、10の学系に分類。
- ・ 各評価者は、最大16組織の書面調査（報告書作成は主担として8組織分）を行う。
（同一組織の教育と研究の現況分析を行う場合は、2組織分としてカウント。）
- ・ 分析は、同一組織を必ず2人で分析する。
- ・ 各学系部会が担当する組織については、法人側の意向を確認の上、決定する。

（評価者数）

- ・ 大学の全国共同利用機能を有する附置研究所及び研究施設には、学系全体評価者2名を追加配置し、対応。
- ・ 現況分析判定部会全体としては211人。

※評価者数試算

学系部会	学部、研究科等名称	想定組織数			学系部会の評価者数（試算）
		教育	研究	計	
人文科学系	文、人文、外国語 など	45	30	75	12
社会科学系	法、法曹養成、経済、経営、商、会計、公共政策、社会 など	134	86	220	28
理学系	理、数理 など	46	46	92	14
工学系	工、システム工、工学資源 など	96	60	156	20
農学系	農、畜産、獣医、水産 など	81	49	130	19
保健系	医、歯、薬、看護、保健 など	135	104	239	32
教育系	教育、学校教育、体育 など	116	60	176	22
総合科学系		140	157	297	44
（文系）	・ 複数の文系の学系を中心に統合して成り立つ学部、研究科等 （例：法文、地域、国際 など）	41	31	72	11
（理系）	複数の理系の学系を中心に統合して成り立つ学部、研究科等 （例：理工、情報、生命科学 など）	55	79	134	19
（融合）	文系・理系の学系を融合させた、学際的領域あるいは新領域を扱う学部、研究科等 （例：総合人間、情報文化、環境、生活科学、図書館 など）	44	47	91	14
特定領域系	・ 芸術系の分野を扱う学部、研究科等	8	4	12	2
大学共同利用機関			18	18	18
		801	614	1415	211

（注）評価者数試算詳細は、参考資料5のとおり。

3. 研究業績判定組織の評価実施組織と評価者数

(評価実施組織)

- ・ 研究業績判定組織は、66の分野(科学研究費補助金の分科)に分類。
- ・ 研究業績の水準判定は、同一業績を必ず2人で行う。
- ・ 各評価者が担当する業績数は、評価者の負担を考慮し、最大300業績とする。

(評価者数)

- ・ 各専門部会には最低2人を配置、必ず「細目」数の評価者は確保。
- ・ 評価者1人が担当する業績数が300を超えるごとに評価者を増員。
- ・ 研究業績判定組織全体としては311人。

※評価者数試算

専門部会名	業績数	評価者数	専門部会名	業績数	評価者数
情報学	1144	11	プラズマ科学	73	2
神経科学	432	4	基礎化学	402	4
実験動物学	57	2	複合化学	617	6
人間医工学	524	4	材料化学	263	4
健康・スポーツ科学	416	4	応用物理学・工学基礎	410	5
生活科学	258	2	機械工学	1013	8
科学教育・教育工学	375	4	電気電子工学	895	7
科学社会学・科学技術史	26	2	土木工学	594	6
文化財科学	32	2	建築学	472	4
地理学	63	2	材料工学	586	6
環境学	549	4	プロセス工学	290	4
ナノ・マイクロ科学	306	4	総合工学	470	7
社会・安全システム科学	241	2	基礎生物学	505	6
ゲノム科学	87	2	生物科学	633	7
生物分子科学	130	2	人類学	92	2
資源保全学	33	2	農学	327	5
地域研究	78	2	農芸化学	437	5
ジェンダー	54	2	林学	192	2
哲学	269	6	水産学	178	2
文学	318	4	農業経済学	100	2
言語学	432	5	農業工学	167	3
史学	364	5	畜産学・獣医学	316	5
人文地理学	65	2	境界農学	129	2
文化人類学	98	2	薬学	671	6
法学	263	7	基礎医学	1331	13
政治学	148	2	境界医学	216	3
経済学	441	7	社会医学	388	4
経営学	278	3	内科系臨床医学	2657	18
社会学	321	4	外科系臨床医学	2400	16
心理学	333	4	歯学	1399	10
教育学	480	4	看護学	480	4
数学	640	6			
天文学	106	2			
物理学	788	6	計	29,365	311
地球惑星科学	513	7			

(注)「業績数」は、学内共同教育研究施設を除く助教以上の50%の数で算出。

4. 評価員総数

①達成状況判定会議

・ 必要な評価者数 1 2 7 人

②現況分析部会

・ 必要な評価者数 2 1 1 人

③研究業績判定組織

・ 必要な評価者数 3 1 1 人

④評価者総数

・ 合計 6 4 9 人